



# 公益社団法人 日本作曲家協会 会報

No. 182

<http://www.jacompa.or.jp>

JAPAN COMPOSER'S ASSOCIATION

## オリジナルソング・コンテスト

# グランプリ曲決定!

今年度の「オリジナルソング・コンテスト」は「日本作詩家協会50周年記念大賞」とのコラボ企画「ソングライターコンテスト」としてスタートした。株式会社テイチクエンタテインメントのご協力のもと、城之内早苗さんを対象歌手に「おちょこ鶴」「七つ橋渡り」の2編(作詩家協会ソングライターコンテスト大賞作品)を課題詩として募集が行われ、167作品の応募があった。

8月4日(火)、当協会会議室で赤間剛勝、酒井政利、高柳六郎3氏の音楽プロデューサーによる審査で「おちょこ鶴」15作品、「七つ橋渡り」13作品を選び、最終選考はテイチクエンタテインメント制作スタッフにより行われ、みちあゆむ氏作曲の「おちょこ鶴」がグランプリに決定した。

そしてこの作品は10月5日(月)「日本作曲家協会音楽祭・2015」(北区北とぴあ・さくらホール)において披露及び表彰が行われる。

城之内早苗



### ◆グランプリ

「おちょこ鶴」 作詩：内田りま  
作曲：みち あゆむ

### ◆準グランプリ

「七つ橋渡り」 作詩：小宮正人  
作曲：南部直登

### ◆優秀作品賞

「おちょこ鶴」 山口正光／藤田たかし／豊岡良光  
「七つ橋渡り」 棚橋清志／山田恵範／村田誠一

# 「日本作曲家協会音楽祭・2015」出演歌手決定

10月5日(月)、北区・北とびあ さくらホールで行われる「日本作曲家協会音楽祭・2015」の出演者が下記のとおり決定した。今年度からは、「作曲家協会音楽祭・奨励賞」「作曲家協会音楽祭・3賞」に併せて、目覚ましい活躍で歌謡界をリードする歌手に「作曲家協会音楽祭・特別選奨」を授与し、ステージを飾ってもらうことになった。

## ◆日本作曲家協会音楽祭・特別選奨◆



山川 豊  
(ユニバーサルミュージック)



天童よしみ  
(テイチクエンタテインメント)



鳥羽一郎  
(日本クラウン)

## ◆日本作曲家協会音楽祭・奨励賞◆



みやさと奏 (徳間ジャパンコミュニケーションズ)  
「逢いたくて金沢」  
作曲・叶 弦大/作詩・田久保真見



池田一男 (テイチクエンタテインメント)  
「最後の恋人」  
作曲・幸 耕平/作詩・たか たかし



山本あき (キングレコード)  
「十六夜化粧」  
作曲・四方章人/作詩・田久保真見

◆ベストカラオケ賞◆

「悲別～かなしべつ～」  
作曲・弦 哲也／作詩・仁井谷俊也



川野夏美 (日本クラウン)

◆有線大衆賞◆

「飲んじゃって…」  
作曲・作詩 杉本真人



藤田恵美 (ポニーキャニオン)

◆ロングヒット賞◆

「時の流れに身をまかせ」  
作曲・三木たかし／作詩・荒木とよひさ



歌唱・クミコ (日本コロムビア)

名曲を紡ぐ～作曲家の思い

「小樽のひとよ」 作曲・鶴岡雅義／作詩・池田充男



はやぶさ (ビクターエンタテインメント)



作曲家・鶴岡雅義

◆ソングコンテストグランプリ曲歌唱◆

「おちょこ鶴」

作曲・みち あゆむ  
作詩・内田 りま

城之内早苗

(テイチクエンタテインメント)



❖ チケットご希望の方 ❖

「日本作曲家協会音楽祭・2015」  
観覧ご希望の方は、事務局まで  
FAXにてお申込みください。  
チケットはお一人2枚までとし、  
なくなり次第終了とさせていただきます。

公益社団法人 日本作曲家協会  
FAX：03-3585-7694



# オリジナルソング・コンテスト

## ☆グランプリ受賞に寄せて☆

みち あゆむ



暑さ厳しい今年の夏。8月11日夕方、事務局からグランプリ受賞の電話が入りました。何かの間違ひでは、と耳を疑いました。

歌が好きで、ずっと夢を描きながら、今日まで続けて来て良かったとつくづく思います。詩

の持つ温かさ、情景、そして城之内早苗さんの声質、歌う姿をイメージしながら作らせて頂きました。

お世話になっている諸先生方に良い恩返しになると思います。この受賞を糧にこれからも頑張ります。本当にありがとうございました。

## 選考にあたって

テイチク制作本部 制作グループ長 佐藤 尚



「日本作詩家協会50周年記念大賞」と「日本作曲家協会音楽祭オリジナルソング・コンテスト」との両協会初となるコラボレーションという一大事業に、私の担当アーティストである城之内早苗をご指名・起用していただき、大変光栄で

あると同時に、責任の重さに身の引き締まる思いで取り組ませていただきました。両協会のご担当の委員の方から大変な数の応募があったと聞き、両協会会員の皆様の意欲の高さに応えられるよう慎重かつ厳粛な審査を重ねさせていただき、今回の受賞作を最終的に選定いたしました。

選考の感想といたしましては、今回は詩先だったのですが、その詩が自ずと要求するメロディーのありかたに対して、曲は曲で違う形にまとまろうとしているという傾向の作品が多かったように感じます。その中で詩とメロディーの調和がしっかりしていてかつ、今回は城之内早苗が歌うという前提のもと、曲想自体も吟味して最終決定に至った次第です。

今回選ばれなかった作品の中には、歌手手を考え

なくてよい状況であれば、着想の独自性に優れたクオリティーの高い作品も何曲もあり、会員の方々の力量の高さを改めて認識させていただきました。このようなコンテストを今後も良い形で継続していただき、音楽業界の原動力である作品の創作能力が高まっていくことを期待しております。

音楽プロデューサー 赤間剛勝

対照的な2篇の詩に、多才な作品が集まりました。「おちょこ鶴」は、奇抜なタイトル、表現力の高い作風に、当然のようにほのぼのの歌謡が多くなりました。「七つ橋渡り」は、抒情歌謡、フォーク歌謡というところ方になりがちですが、ボサ・ノバなどのリズムにのせた独創的な作品もありました。

作者の熱い思いが、どれだけ聞く側に伝えることができるかとか、歌手が歌唱力を存分に発揮できる作品なのか…とか、チャレンジ精神旺盛な応募作品を更に期待をしております。

音楽プロデューサー 酒井政利

詩を書く、曲を付けるというクリエイティブな世界は、無限に面白い作業だと思う。詩・曲双方に交流(コラボ)が大切なのはもちろんだが、そこに歌手の個性をどう際立たせるかが重要ポイントになる。

詩・曲・歌手というパズルのピースを埋めるだけでは凡打で敗退しかねない。ベストマッチであれミスマッチであれ、心を射る配分配合がある。

群れるが如くいる歌手の中で唯一の存在にするには、このスクランブル合戦がヒット戦線に繋がっていく。

音楽プロデューサー 高柳六郎

本年も沢山の応募作品を試聴させて戴きましたが、我々選定する側にも大変苦労がありました。何故ならば、特に演歌部門課題詩の「おちょこ鶴」に関してであります。詩の持つ全体イメージが付曲に当たって絞り切れていたのだろうか……と少々感じました。

即ち、主にマイナー楽曲での作品が大勢を占めていた様に思え、例えばメジャー作品で明るく、リズムカルな作品、いわゆる軽快さのある弾む感の作品での創意発想が欲しかった様にも思えました。

ではあります。楽曲を創る方々のご苦労が深く理解出来、結果としては素晴らしい作品を選ばせてもらったと考えます。

(50音順・敬称略)